

高知大学における評価活動について

1. 大学の基本理念・目標

・理念

教育基本法に則り、国民的合意の下に、地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究の充実・発展を推進する。

・目的

1. 豊かな教養と高度な専門性を旨とする教育の実現
2. 高度で実質的な学術研究の推進
3. 地域社会との連携の強化
4. 国際社会への貢献の推進
5. 活力ある大学の運営

2. 大学組織

2-1) 運営組織図 (資料1: 10/33 ページ)

2-2) 教育研究組織図 (資料2: 11/33 ページ)

2-3) 教員数 (平成18年1月1日現在)

教授	228名
助教授	184名
講師	45名
助手	163名
合計	620名

2-4) 学生数 (平成18年1月1日現在)

学部学生	4,943名	(留学生内数 60名)
修士(博士前期)	429名	(留学生内数 34名)
博士(博士後期)	194名	(留学生内数 29名)
合計	5,566名	(留学生内数 123名)

3. 評価の概要

3-1) 評価活動の理念・目的

評価活動は、高知大学の理念や目的の実現のために、大学の機能・質の改善及び諸活動の活性化・水準の向上を図ることを目的とする。

平成16年4月から国立大学法人高知大学がスタートした。法人化の掲げる大きな目的は「競争的環境の育成と個性ある大学の創造」である。法人化により、大学は財務や人事を含めての経営面での自由を保証される。一方、資源の分配・獲得は大学間の競争にゆだねられ、この過程に第三者評価が組み込まれる。また、教育・研究面においても第三者評価によって競争力の維持や向上が期待される。つまり、国による大学運営に「競争と評価」のシステムが導入されるのである。

高知大学は、このような時代の変革に的確に対応するため、第三者評価への対応や大学評価をめぐる動向に配慮しつつ、主体性と自律性に立脚した独自の内部評価システムを構築する必要があった。この内部評価システムは、本学における「進化する評価システム」(資料3:12/33ページ)の構築のための第一歩である。定期的に現状を分析、評価して問題点を改善していくことにより、より良い大学へと変革することが可能となる。その結果として、競争力と個性に溢れる大学の創造へと結びつけることができる。

また、内部評価は、高知大学の教育、研究、社会貢献、大学(部局)運営等の多様な活動の改善及び活性化・水準の向上を図ることを目的とする。内部評価を充実させることにより、法人化後に行われる中期目標・中期計画の達成度評価等の第三者評価に適切に対応することが可能となる。

3-2) 評価の沿革

平成15年10月	高知大学と高知医科大学統合 法人化実施本部、評価専門委員会設置
平成16年1月	「法人化後の高知大学における評価について」策定
平成16年3月	「高知大学における評価のグランドデザイン」「高知大学における評価の実施要領と高知大学基礎データ収集システムへの提言」策定
平成16年4月	国立大学法人高知大学設置 評価ワーキンググループ設置
平成16年6月	「教員の総合的活動自己評価実施要領」役員会承認
平成16年7月	評価本部設置
平成16年11月 ～12月	「教員の総合的活動自己評価」各キャンパス説明会開催

平成16年12月	「組織評価の実施要項」役員会承認
平成16年12月 ～平成17年2月	「教員の総合的活動自己評価」及び「組織評価」を試行
平成17年5月	妥当性の検証及び総括表の点数化実施
平成17年6月	妥当性の検証及び総括表の点数化に関する概要役員会提出
平成17年7月	妥当性の検証結果を教員にフィードバック、アンケート実施
平成17年11月	平成16年度に試行した「教員の総合的活動自己評価」に関する報告書作成
平成17年12月	「平成17年度教員の総合的活動自己評価」本格実施（WEB入力実施）
平成18年1月	部局内プレ評価（認証評価基準）説明会開催
平成18年2月	「平成17年度組織評価」本格実施

3-3) 評価組織・体制（資料4：13/33ページ）

高知大学評価本部規則により、学長の下に高知大学評価本部を設置している。評価本部は、本部長、学内委員6人、学外委員1人及びその他学長が必要と認めた者で組織されることとされており、現在、教員7人、学外委員1人及び高知大学監事1人の9人で構成されている。評価本部は、（1）法人における学内評価制度の充実・改革に資すること、（2）中期目標・中期計画に係る評価、（3）学校教育法第69条の3第2項に定める認証評価等の外部評価に対応することを目的とする。評価本部の事務は、中期目標・中期計画に係る評価を企画部総務企画課4人（課長1人、課長補佐1人、専門職員1人、主任1人）で、その他の評価を企画部評価情報課4人（課長1人、課長補佐1人、主任1人、係員1人）で処理している。

3-4) 実施している評価活動

- ① 年度計画実施経費及び学長裁量経費を、研究計画および実績に基づいて、教員や学内のプロジェクトチームに傾斜配分している（評価本部の業務外）。
- ② 外部有識者を含む「評価本部」を設置し、教員の総合的活動自己評価実施要項及び組織評価の実施要項を規定し、平成16年度に教員の自己評価及び組織評価を試行、平成17年度より本格実施を行っている。これにより、「自己評価スパイラル」システムの自

己改革インセンティブが期待される。

- ③ 教育活動において多大な成果を上げた教員を顕彰するために、「教育奨励賞」を設けている。受賞者は、同僚あるいは学生等の多面的な評価を基に選考されている。受賞者は、受賞内容を「教育研究論文集」に公表し、公開授業及びFDを通して、全学に成果を還元する（評価本部の業務外）。
- ④ 独創的で優れた研究活動を行っている若手研究者を顕彰するために、「大学院生研究奨励賞」及び「若手教員研究優秀賞」を設けている。研究担当理事のもとに選考委員会が設置され、定められた評価基準に基づいて受賞者の選考が行われている。（評価本部の業務外）。

4. 評価方法

A. 教員の総合的活動自己評価

（資料5：14/33 ページ、資料6：18/33 ページ、資料7：20/33 ページ、資料8：23/33 ページ、資料9：24/33 ページ）

教員の総合的活動自己評価は、教育、研究、社会貢献、大学（部局）運営及び診療に分類（大項目：評価軸にあたる）された教員の全活動についての自己評価報告書及び添付資料を作成することによって施行する。

自己評価報告書は、活動分野における活動比率を自己申告する。また、前年度のはじめに教員1人ひとりが活動ごとに設定した当該年度の「改革目標」と「計画」について一年間を振り返り、各分野における自らの活動を、自己評価するものである。

具体的には、過去一年間の活動比率を活動分野ごとに自己申告し（トータル100%）、活動分野毎に4段階評価するものである（A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点）。Aは「目標に十分到達している」、Bは「目標におおむね到達しているが、改善の余地もある」、Cは「目標にある程度到達しているが、改善の必要がある」、Dは「目標への到達が不十分であり、大幅な改善の必要がある」を表している。例えば、教育活動30%(A)、研究活動20%(A)、社会貢献活動30%(B)及び大学（部局）運営活動20%(A)の場合、 $(30 \times 4) + (20 \times 4)$

$+(30 \times 3) + (20 \times 4) = 370$ 点（400 点満点中）となる。この点数を自己評価点とした。

添付資料は、各教員の自己評価の基となった活動内容を記載するものである。添付資料の内容をもとに総括表を作成する。総括表を作成することで教員の 1 年間の仕事量を表す客観的な資料を作成することが可能となる。

添付資料に記載された活動内容の一覧表である総括表を作成し、点数化を行った。全教員の全仕事量を 10 万点とし、全学集計した活動比率（自己申告したもの）に基づき、教育、研究、社会貢献、大学（部局）運営及び診療の大項目に配分した。次に、それぞれの大項目内において、中項目の占める割合を大まかに定めた。さらに各中項目の下に小項目を設けた。

最後に、小項目（例えば、「入試関連における問題作成」等）ごとに素点を定めた。小項目の素点を（全学）総件数と乗じる（件数×素点）ことにより、大学全体としての小項目の点数が計算され、小項目の和が中項目の点数として、さらに中項目の合計が大項目の総点数として計算される。

同じ活動分野内における各素点の適切さ、さらに異なる活動分野間の素点の適切さについては、講義 1 時間あたりに換算することによりその妥当性を検証した。

論文の素点については、学問分野の違いを考慮した。本学の「中期目標・中期計画」（研究に関する目標）において「論文数（理系教員は一人当たり年間 1 編以上、文系にあっては年間 0.5 編以上）」と明記されていることから、文系論文の素点は理系の 2 倍とした。また、欧文論文の素点は邦文の 2 倍にした。

その後、素点の一覧表に基づき、各個人の総括表を点数化した。この点数が、個々の教員における自己が定めた目標に対する達成度を客観的に示す指標となる。

個々の教員が自己申告した自己評価点は、目標設定が低い場合には高い自己評価点になり、逆に高い場合には低い自己評価点となる可能性がある。そこで、「自己評価の厳しさ」を表す指標として「自己評価指数」を設定した [自己評価指数 = 総括表点数 / 自己評価点]。つまり、自己評価点は、自己評価 1 点に相当する客観的な仕事量を示す。この指数を教員自身が同僚の値と比較することにより、自らが「自己評価の厳しさ」を判断するシステムとした。

教員の総合的活動の自己評価は、全学の教員の 1 人ひとりの順位付

けを意図したものではなく、あくまで自らが自らの置かれた状況を判断し、より良い状態へと進化していくためのものがある。この自己評価システムをさらに良いものへと改良すると共に、高知大学がさらに発展する一助になりうる。

B．組織評価（資料10：26/33 ページ、資料11：31/33 ページ）

組織評価は、「各組織（部局）の理念、目的（目標）の実現にどれだけの成果を挙げているのかを、各組織の構成員が、組織的に目標・計画を立て実施し、その成果に基づいて自己点検・評価を実施するものである。組織としての機能は構成員の活動や業績の集積である教員の総合的活動自己評価報告書のみで行なわれるのではなく、組織の中期及び年度の目標・計画の達成度を自己点検・評価し、改善しなければならない。

組織評価システムは絶えざる試行錯誤を経てより良いものにしていくべきものであり、この要項で提示する組織評価は、いわゆる「進化する評価システム」の構築のための第一歩である。今後、多くの助言をもとにより良いものへと改良していかねばならない。

高知大学における大学改革の基本姿勢として、4つの C (Chance、Challenge、Create and Change) が提唱されている。① Chance は改革目標、② Challenge は計画、③ Create は成果、そして、④ Change は次年度の改革目標である。各組織（部局）は、この4つの C をもとに組織の自己評価を行う。

各組織（部局）は、その理念・目的（目標）に基づいて、自ら、年度始めに今後一年間の ① 改革目標 (Chance) と② 計画 (Challenge) を設定する。そして、年度末において、組織としての成果と自己点検評価 [③ 成果 (Create) と ④ 次年度の改革目標 (Change)] を行う。

評価対象は、教育活動、研究活動、学部等運営活動、社会貢献活動（国際交流も含まれる）及び附属病院における診療活動である。

（1）教育活動の評価

より具体的に記述された教育目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その教育目的から、年度始めに ① 改革目標 (Chance) と② 計画 (Challenge) を設定する。年度末におい

て、教育成果を集計して、組織としての自己点検評価〔③ 成果(Create)と④ 次年度の改革目標(Change)〕を行う。組織として具体的な例及び数値を挙げて行うものとする。

(2) 研究活動の評価

より具体的に記述された研究目的(数項目からなる箇条書き)を設定して明示する。その研究目的から、年度始めに ①改革目標(Chance)と② 計画(Challenge)を設定する。年度末において、研究成果を集計して、組織としての自己点検評価〔③ 成果(Create)と④ 次年度の改革目標(Change)〕を行う。組織として、研究のための資源確保の実績(科学研究費補助金等)や研究成果(学会発表、研究論文)についても具体的な例及び数値を挙げて行うものとする。

(3) 社会貢献(国際交流等を含む)活動の評価

より具体的に記述された社会貢献(国際交流等を含む)目的(数項目からなる箇条書き)を設定して明示する。その目的から、年度始めに ① 改革目標(Chance)と② 計画(Challenge)を設定する。年度末において、社会貢献(国際交流等を含む)活動の成果を集計して、組織としての自己点検評価〔③ 成果(Create)と④ 次年度の改革目標(Change)〕を行う。組織として具体的な例及び数値を挙げて行うものとする。

(4) 学部等運営活動の評価

より具体的に記述された学部等運営活動の目的(数項目からなる箇条書き)を設定して明示する。その目的から、年度始めに ① 改革目標(Chance)と② 計画(Challenge)を設定する。年度末において、学部等運営活動の成果を集計して、組織としての自己点検評価〔③ 成果(Create)と④ 次年度の改革目標(Change)〕を行う。組織として具体的な例及び数値を挙げて行うものとする。

(5) 診療活動の組織評価

医学部附属病院は、より具体的に記述された目的（数項目からなる箇条書き）を設定して明示する。その目的から、年度始めに① 改革目標（Chance）と② 計画（Challenge）を設定する。年度末において、成果を集計して、組織としての自己点検評価〔③ 成果（Create）と④ 次年度の改革目標（Change）〕を行う。組織として具体的な例及び数値を挙げて行うものとする。

5. 評価活動に関する今後の展望

平成16年度より試行した教員の総合的活動自己評価は、いくつかの改良を加え、平成17年度より本格実施を行っている。最大の改良点はWEB入力を導入した点である。これにより、添付資料からの総括表の抽出は自動的に行うことが可能となり、教員は1年間を通して随時、データ入力と確認ができるようになった。このことは、教員が年度の途中でも自己評価をリアルタイムで行うことを可能としており、より効果的であると期待される。

最後に、高知大学が作り出してきた自己評価システムの今後の取り組みについて述べる。

1) 客観的な組織評価と自己評価システムの利用について

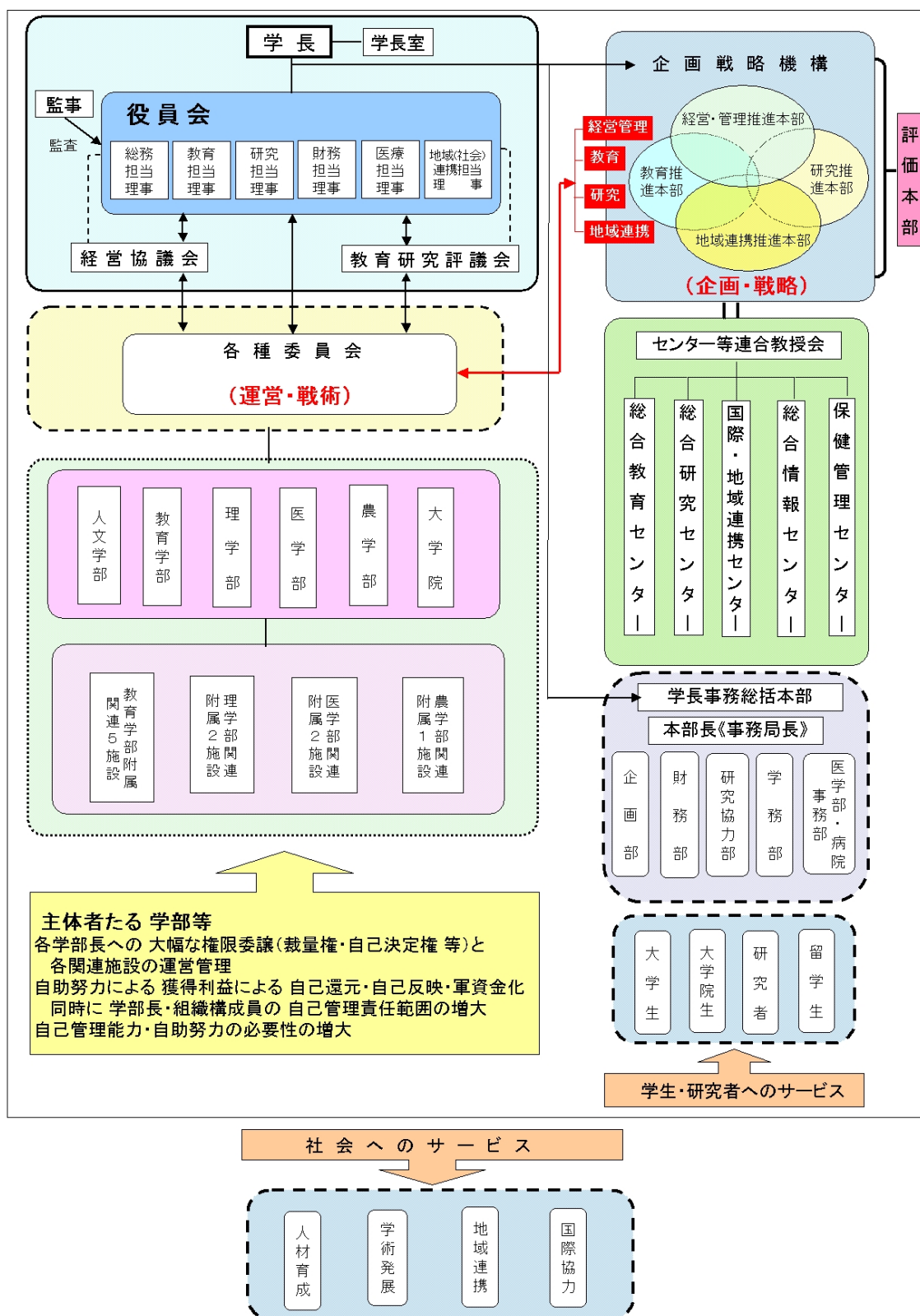
高知大学式自己評価システムは、第一義に教員個々の自律的進化及び意識改革を目的としているが、ひいては学部組織あるいは大学全体の活性化とレベル向上を図ることを目的としている。このため、活動量を反映する総括表点数を、評価項目ごとに個人レベル、学部レベル、大学レベルで経年的に比較する。教員個々のデータは、各教員にフィードバックして自律的進化と意識改革を期する。学部レベル、大学レベルの活動の経年変化から、大学全体の活動量の変遷をレビューする。組織のデータは検証を加えて年報として公表する。3年後をめぐり、現在大学が推進中の各種取り組みやプロジェクトの効果が総括表点数に反映されるか否かを検証する。

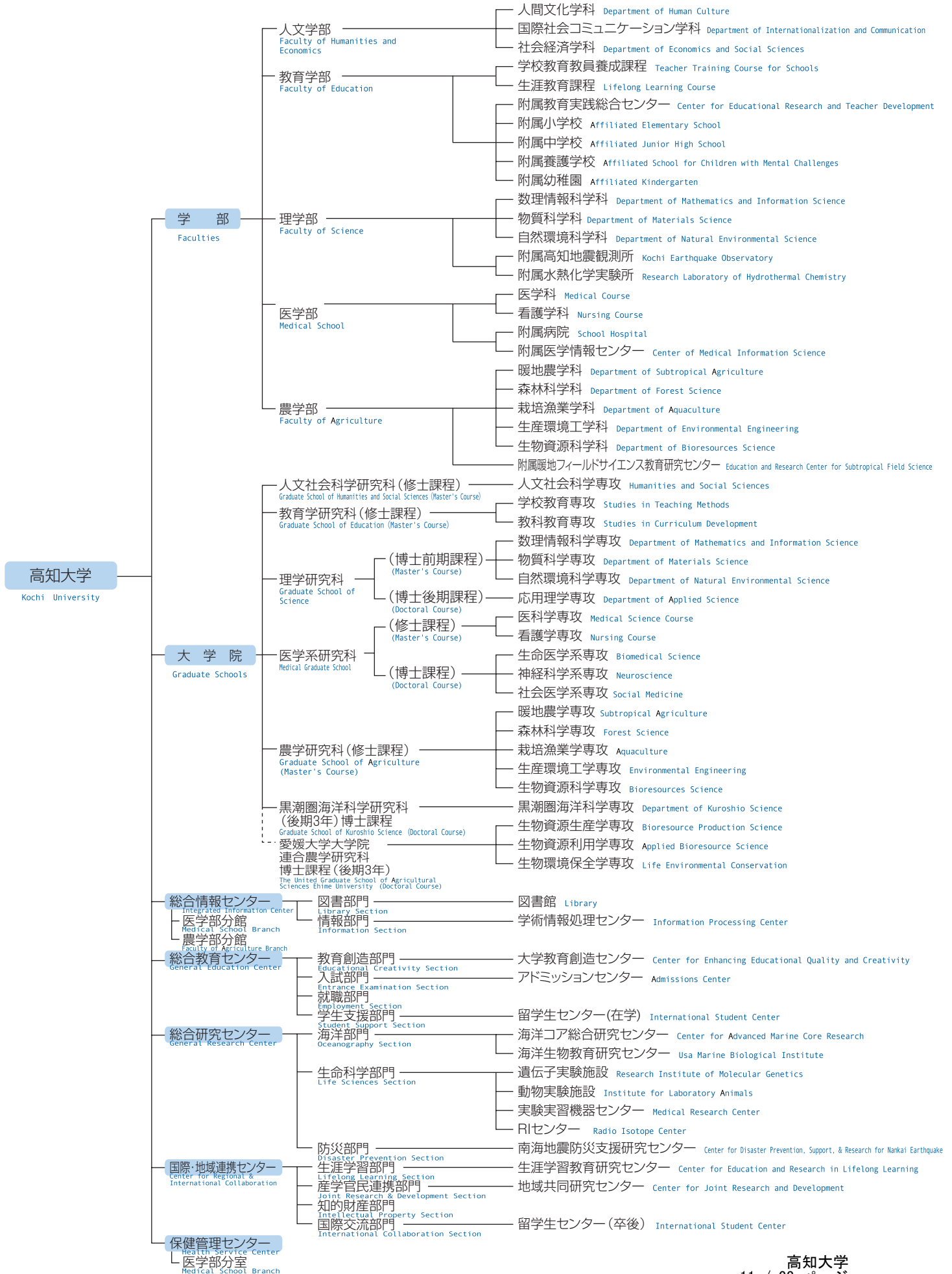
2) 質的な評価について

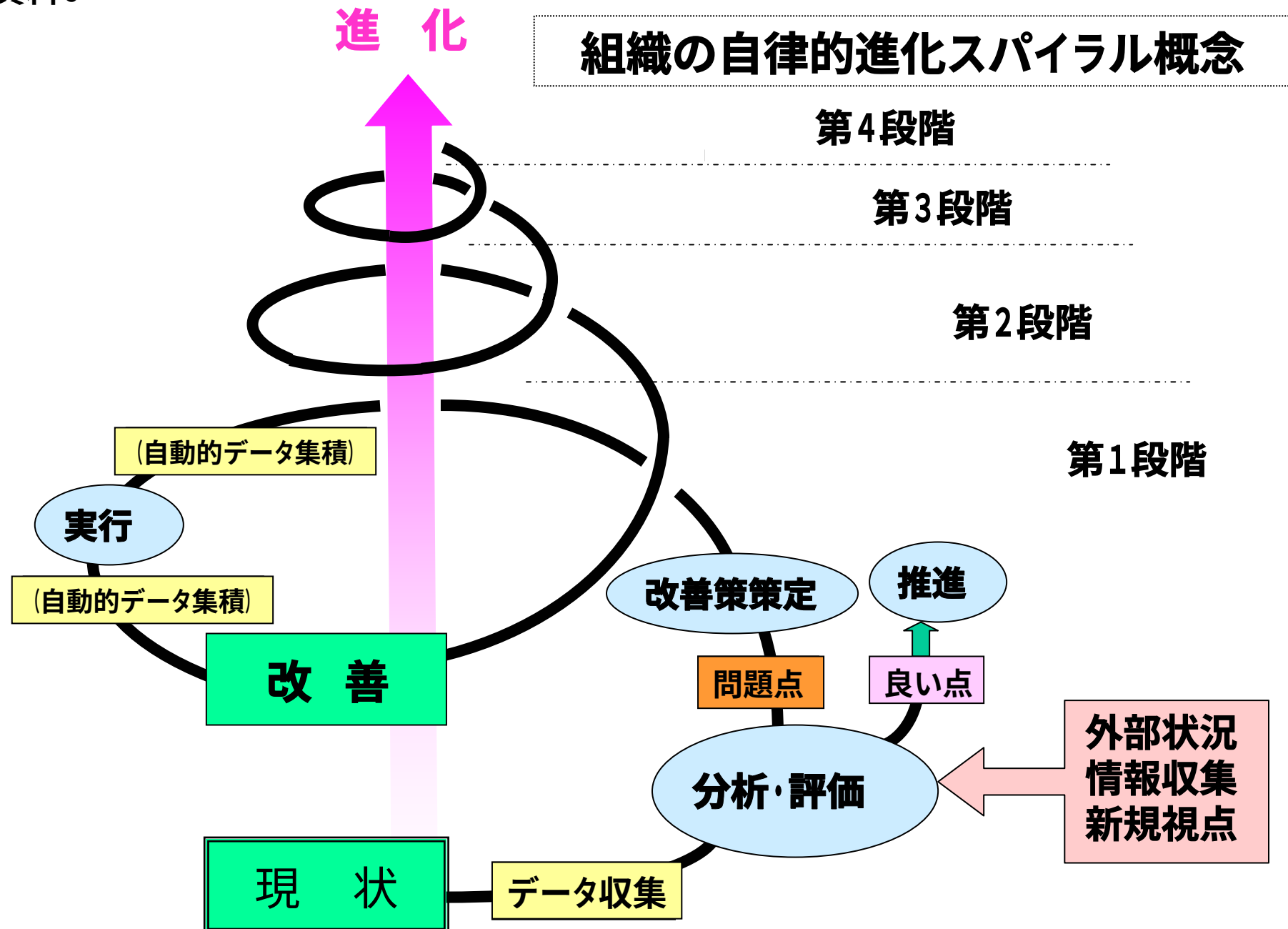
高知大学式自己評価システムは、成果のみならず、プロセスも勘

案した優れた評価システムであると自負しているが、研究業績や教育業績の質を公正に評価するために、専門家による外部評価を加える。

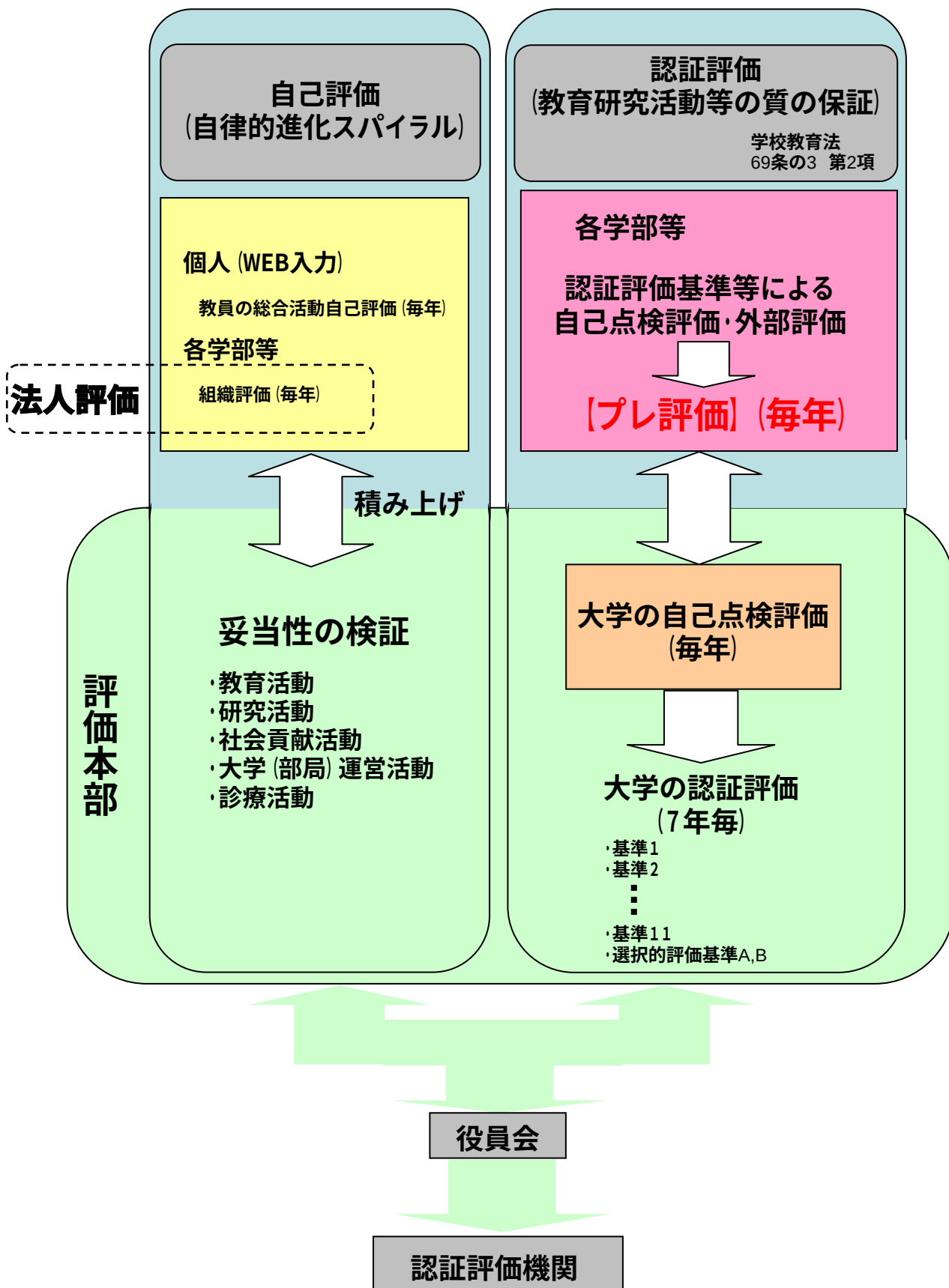
高知大学運営組織機構概念図







評価概要



資料 5

II 自己評価報告書 (平成 16 年度教員自身の活動に対する自己評価報告書)

氏名：

番号：

提出日： 年 月 日

所属部局名：

講座等名：

現職：

活動の重点分野

☐ 教育；☐ 研究；☐ 社会貢献；☐ 大学運営；☐ 診療

活動比率（%）(Total 100%)

教育（ %）；研究（ %）； 社会貢献（ %）；大学運営（ %）；診療（ %）

総合自己評価

活動分野	活動比率（%）	評点(A,B,C,D)	傾斜評点（比率×評点）
教育活動			
研究活動			
社会貢献活動			
大学運営活動			
診療活動			
合計	100		(/400)

自己評価の評点（A=4，B=3，C=2，D=1）

(1) 教育活動の自己評価

I 教育目的および教育目標

1. 所属部局（学部，大学院）の教育目的および教育目標

（それぞれ 150 字以内）

学部

大学院

2. 担当する科目の教育目的および教育目標

(1) 担当する主要な科目名

学部

大学院

(2) 担当する主要な科目の教育目的および教育目標（それぞれ 100 字以内）

学部

大学院

3. 当該年度の教育目標面における教員自身の 4 つの C (Chance, Challenge, Change, Create)（各 200 字以内）

Chance（改革目標）

Challenge（計画）

Change（成果）

Create（次年度の改善目標）

4. 上記「4つのC」に対する個々の教員自身の達成度をA-Dで評価し，1つを選択して○で囲む。

- A, 目標に十分到達している。
- B, 目標におおむね到達しているが，改善の余地もある。
- C, 目標にある程度到達しているが，改善の必要がある。
- D, 目標への到達が不十分であり，大幅な改善の必要がある。

II 学部長等への教育面における要望等（150字以内）

--

III 特に取り組んでいる教育項目に対するキーワード（5個以内）

1
2

3

4

5

資料6

添付資料項目

分類	項目	人文	教育	理学	医学	農学	黒潮
I	入試関連業務						
1	問題出題（学部，修士課程，博士課程）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	採点（学部，修士課程，博士課程）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	面接	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	試験分析，企画件数	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	受験生獲得対応：（学科，学部，大学院，その他）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6	特記事項	☐	☐	☐	☐	☐	☐
II	教育活動に関する事項						
1	教育指導						
(1)	共通教育での講義等	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(2)	学部および大学院講義，演習，実習等	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(3)	他学部（学科）の講義・実習等	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(4)	学部生，大学院生の指導	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	教育改善のための活動						
(1)	教育に関するFD（Faculty Development）活動	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(2)	教育に関するFDへの受講の有無	☐	☐	☐	☐	☐	☐
(3)	教育改善への取り組み（カリキュラム，シラバス，授業改善等） （特記事項を50字以内で箇条書き）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	就職関連活動	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	海外留学支援活動： 件	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	正課外における学生指導	☐	☐	☐	☐	☐	☐
III	研究活動に関する事項						
1	研究発表論文（著書，総説，原著，その他）						
1	著書	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	総説	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	原著論文	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	国内雑誌（査読なし）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	翻訳	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6	書評	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7	作品・演奏会等（美術・音楽・書道）		☐				
8	競技会		☐				
9	報告等			☐			
10	症例報告				☐		
11	その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐
12	特記事項	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	学会活動に関する事項						
1	学会発表	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	加入学会	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	主催または共催した学会，研究会等（コンクール，展覧会等含む）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	学会誌への投稿論文の査読	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	学術雑誌編集	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6	特記事項	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	受賞	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	特許	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	作物等の品種登録					☐	
6	セミナー，研究会開催 農学部		☐			☐	
IV	研究費申請・採択状況						
1	科学研究費補助金	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	共同研究	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	受託研究、奨学寄附金等	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	学長・学部長裁量経費	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	安心の会				☐		
6	その他	☐	☐	☐	☐	☐	☐

V 診療活動業績						
1	診療への従事度（貢献度）					☐
2	診療内容					☐
3	臨床における創意，工夫（治療システム，手術術式，診療器具，材料，麻酔方法，薬剤などの開発，導入，照会など）					☐
4	院内診療システムの構築，改善					☐
5	臨床教育指導					☐
6	地域の病院に対する支援					☐
7	第三者評価（協力体制）					☐
8	特記事項					☐
VI 社会活動に関する事項						
1	学外における教育活動					
	（1）他大学、学校での講義・実習	☐	☐	☐	☐	☐
	（2）附属学校での講義等		☐			
	（3）附属学校等への助言		☐			
2	講演、研修	☐	☐	☐	☐	☐
3	審査員及び審判活動		☐			
4	審議会活動等	☐	☐	☐	☐	☐
5	企業との連携活動	☐	☐	☐	☐	☐
6	ボランティア活動	☐	☐	☐	☐	☐
7	メディアによる啓発活動	☐	☐	☐	☐	☐
8	鑑定活動			☐		
9	保健、医療従事者に対する教育活動			☐		
10	同窓会活動	☐	☐	☐	☐	☐
VII 国際交流に関する事項						
1	セミナー、シンポジウムの開催	☐	☐	☐	☐	☐
2	大学、学部間学術交流	☐	☐	☐	☐	☐
3	国際学術組織との交流	☐	☐	☐	☐	☐
4	在外研究	☐	☐	☐	☐	☐
5	海外の姉妹校との交流	☐	☐	☐	☐	☐
6	留学生、研究者の受入れ	☐	☐	☐	☐	☐
7	技術指導				☐	
8	UN、J I K A，NGO等での専門家としての派遣			☐		
9	国際委員会活動					☐
10	特記事項	☐	☐	☐	☐	☐
VIII 大学運営における活動						
1	各種委員会業務	☐	☐	☐	☐	☐
2	特記事項	☐	☐	☐	☐	☐

資料 7

別添

個人活動自己評価総括表

氏名	
番号	
所属部署名	
職名等名	
現職	

I－入試関連

自己評価
A,B,C,D

--

II－教育

自己評価
A,B,C,D

--

III－研究

自己評価
A,B,C,D

--

総合自己評価			
活動分野	活動比率 (%)	評点 (A = 4, B = 3, C = 2, D = 1)	傾斜評点 (比率×評点)
教育活動			
研究活動			
社会貢献活動			
大学運営活動			
診療活動			
合計	100		/ 400

1 問題出題の有無	(有, 無)
2 採点の有無	(有, 無)
3 面接の有無	(有, 無)
4 試験分析, 企画件数	(件)
5 受験生獲得対応の有無	(有, 無)
6 その他	

1 講義時間総数	(時間/年)
共通教育	(時間/年)
学部, 大学院	(時間/年)
他学部, 他大学	(時間/年)
2 学位審査件数	修士課程 (主査 件; 副査, 件) 博士課程 (主査 件; 副査, 件)
3 学生指導 (卒論, 修論, 博論)	卒論 件; 修論 件; 博論 件

4 FD関連 (企画の有無; 参加の有無)	(企画: 有, 無) (参加: 有, 無)
5 就職相談	(件/年)
6 留学支援	(件/年)
7 クラブ顧問	有 (クラブ名:), 無
8 その他 ()	

キーワード	
1	
2	
3	
4	
5	

1 著書 (総数)	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
欧文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
邦文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
2 総説 (総数)	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
欧文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
邦文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
3 原著論文 (総数)	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
欧文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
邦文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
4 症例報告 (総数)	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
欧文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
邦文	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
その他の論文 (査読なし)	(編/First Author 編/Corresponding Author 編)
5 Impact factor総数	(/First Author /Corresponding Author)
6 Citation index総数	(/First Author /Corresponding Author)
7	総回数 (回/発表者 回) (司会 回)
学会活動 (発表, 司会)	(国内 回/発表者 回) (司会 回)

IVー外部資金獲得等
(代表者のみ)

自己評価
A,B,C,D

Vー社会貢献

自己評価
A,B,C,D

VIー国際交流

自己評価
A,B,C,D

VIIー大学運営

自己評価
A,B,C,D

	(国際 回/発表者 回) (司会 回)
8 受賞 (名称, 件数)	件数: 名称:
9 特許 (作物の品種登録を含む)	出願 (公開) (件) 取得 (件)
10 研究セミナー	(開催件数 件)
11 その他	

キーワード

1	
2	
3	
4	
5	

総 額	(万円/年)
1 科学研究費補助金	(万円) (採択件数 件/応募数 件)
2 共同研究	(万円)
3 受託研究, 奨学寄附金	(万円)
4 学長, 学部長裁量経費	(万円)
5 安心友の会	(万円)
6 その他	(万円)

1 学外における教育活動	(時間/年)
2 講演, 研修	(件)
3 審議会活動	(回数)
4 産官学との連携	(件数)
5 ボランティア活動	(件数)
6 メディアによる啓発活動	(件数)
7 鑑定活動	(件数)
8 保健, 医療従事者への教育活動	(件数)
9 審査員, 審判活動	(回数)
10 同窓会活動	(回数)
11 その他	

キーワード

1	
2	
3	
4	
5	

1 国際セミナー, シンポジウム	(回数)
2 大学 (学部) / 学術組織との交流等	(回数)
3 在外研究	(回数)
4 海外姉妹校との交流	(回数)
5 留学生, 研究者の受入	(人/年)
6 UN, JICA, NGO	(件数)
7 技術指導	(件数)
8 その他	

キーワード

1	
2	
3	
4	
5	

1 学部長	有, 無
2 附属施設長等	(件数) (施設等名:)
3 委員長 (全学)	(件数)
4 委員長 (学部等)	(件数)
5 委員 (全学)	(件数)
5 委員 (学部等)	(件数)
6 その他	

キーワード

1	
2	
3	
4	
5	

--

1 診療への従事度（貢献度）	
1 診療日数	(週あたり; 年間)
2 診療時間	(週あたり; 年間)
3 診療患者数	(週あたり; 年間)
4 当直日数	(回数/月; 回数/年)
5 時間外診療日数（緊急症例を含む）	(週あたり; 年間)
6 時間外診療時間	(週あたり; 年間)
7 特殊検査	総件数 (件)
内視鏡	(件数)
放射線	(IVR 件数)
その他	(件数) (内容 ;)
2 診療内容	
1 過去1年間の患者数（症例数）	()
2 過去1年間の指導した症例数	()
3 臨床成果の普及活動	有：無, 回 (内容 :)
4 講演回数	(回数)
5 臨床成果に関する学術活動	有：無, 回 (内容 :)
6 担当した特殊患者診療数	(件) (特記事項 ;)
7 担当した難症例症例数	(件) (特記事項 ;)
8 紹介患者数	(件)
9 医事紛争対応	(件)
10 地域の病院に対する	(件)
11 第三者評価への協力	(件 ; 日/年)
3 その他	

キーワード

1	
2	
3	
4	
5	

注：書式中、有無を記入する場合は、該当する事項の前に○印を記入願います。（有の場合の例：（○有，無））

資料8

平成16年度試行的に行った教員の総合的活動自己評価に係る
妥当性の検証結果及び総括表(活動量)点数化結果通知

氏名	高知 太郎
番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
所属	〇〇学部
現職	教授

自己評価・妥当性の検証結果及び総括表(活動量)点数化結果

評価分野	活動比率 (%)	自己評価		妥当性の検証		総括表の 点数化	指数	
		評点	傾斜評点	評点	傾斜評点		◎/◎	◎/◎
教育活動	25	B (3)	75	B (3)	75	78.25	0.651	0.848
研究活動	20	B (3)	60	A (4)	80	65		
社会貢献活動	45	A (4)	180	C (2)	90	26.4		
大学運営活動	10	B (3)	30	C (2)	20	55		
診療活動	0	(0)	0	(0)	0	0		
合計	100%		345 ◎ (400点満点)		265 ◎ (400点満点)	224.65 ◎		

注:◎/◎は、自己評価指数を意味し、◎/◎は検証後自己評価指数を意味する。

評価分野	自己評価	自己評価の検証	検証結果	コメント
教育活動	B	B	1. 自己評価を上回る成果である。 2. 自己評価に相応しい成果である。 3. 自己評価を下回る成果である。 4. 解析不能である(2ランク下げ)。	2
研究活動	B	A	1. 自己評価を上回る成果である。 2. 自己評価に相応しい成果である。 3. 自己評価を下回る成果である。 4. 解析不能である(2ランク下げ)。	1
社会貢献活動	A	C	1. 自己評価を上回る成果である。 2. 自己評価に相応しい成果である。 3. 自己評価を下回る成果である。 4. 解析不能である(2ランク下げ)。	4
大学運営活動	B	C	1. 自己評価を上回る成果である。 2. 自己評価に相応しい成果である。 3. 自己評価を下回る成果である。 4. 解析不能である(2ランク下げ)。	3
診療活動			1. 自己評価を上回る成果である。 2. 自己評価に相応しい成果である。 3. 自己評価を下回る成果である。 4. 解析不能である(2ランク下げ)。	

注1:妥当性の検証は、教員が行う自己評価をより適正で厳密な自己評価につなげることを目的として、評価本部が自己評価報告書、総括表、添付資料に基づき第三者の視点から検証を試行したものです。今後、ご自身で行われる自己評価、更には自己改革の一助となれば幸いです。

注2:総括表の点数化は、全学構成員の総活動を10万点とし、活動比率を基に算出しました(教育活動 30,700点、研究活動 29,800点、社会貢献活動 13,100点、大学運営活動14,000点、診療活動 12,400点)。さらに、各活動を(全学)総件数x素点(添付資料-1、参照)で集計しました。

注3:自己評価指数は、総括表(客観的仕事量)に基づく自己評価の適切度を表しています。添付資料-2の全学平均値等との比較による自己評価能力の向上を目指しています。

資料 9

教育、研究、社会貢献、大学(学部)運営、診療活動の点数化(総件数×素点)

1-教育

項目		総件数	素点	総件数×素点	項目別点数	% (項目別)
問題出題の有無	件数	228	5.00	1140		
採点の有無	件数	230	3.50	805		
面接の有無	件数	264	1.40	370		
試験分析、企画件数	件数	151	3.00	453		
受験生獲得対応の有無	件数	164	2.00	328		
その他(記述)	件数	62	2.00	124	3219.6	10.5
講義時間総数 (時間/年)				0		
	共通教育	13169	0.15	1975		
	学部、大学院	84947.5	0.15	12742		
	他学部、他大学	6196	0.15	929	15646.9	51.0
学位審査件数 (修士)	主査	145	2.00	290		
	副査	293	1.00	293		
(博士)	主査	53	3.00	159		
	副査	139	1.50	209		
学生指導件数	卒論(2年)	991	5.00	4955		
	修論(2年)	368	7.00	2576		
	博論(3-4年)	212	8.00	1696	10177.5	33.1
FD関連(企画の有無)	件数	37	1.50	56		
(参加の有無)	件数	245	0.10	25		
就職相談(件/年)	件数	1267	1.00	1267		
留学支援(件/年)	件数	201	1.00	201		
クラブ顧問の有無	件数	92	1.00	92		
その他(記述)	件数	116	0.20	23	1663.2	5.4
					30707.2	100.0

2-研究

項目		総件数		素点		総件数×素点	項目別点数	% (項目別)
		文系	理系	素点(文系)	素点(理系)			
著書	欧文	4	56	30	15	960		
	邦文	47	177	12	6	1626		
総説	欧文	2	20	30	15	360		
	邦文	16	180	12	6	1272		
原著論文	欧文	61	725	30	15	12705		
	邦文	103	258	12	6	2784		
症例報告	欧文	0	51	12	6	306		
	邦文	1	102	3	1.5	156		
その他の論文	その他	83	194	3	1.5	540	20709.0	69.5
学会活動 国内	参加		1265	文理・共通	0.40	506		
	発表		778		0.60	467		
	司会		319		0.80	255		
国際	参加		234		0.90	211		
	発表		211		1.50	317		
	司会		39		3.50	137		
受賞	件数		36		25.00	900		
特許出願(公開)	件数		67		5.00	335		
取得	件数		9		30.00	270		
研究セミナー	件数		185		1.20	222		
その他(記述)	件数		153		1.00	153	3771.6	12.7
科研	金額(単位:万円)		50635		0.05	2532		
	採択数		178		0.40	71		
	応募数		397		0.25	99		
共同研究	金額(単位:万円)		10060		0.03	302		
受託研究、奨学金附金	金額(単位:万円)		45087.8		0.03	1353		
学長、学部長裁量経費	金額(単位:万円)		17315.3		0.03	519		
その他	金額(単位:万円)		14992.8		0.03	450	5325.9	17.9
							29806.5	100.0

3-社会貢献

項目		総件数	素点	総件数×素点	項目別点数	% (項目別)
(国内)						
学外における教育活動(時間/年)	時間	8266.5	0.20	1653		
講演、研修	件数	998	0.70	699		
審議会活動	回数	764	0.70	535		
産学官連携	件数	560	4.70	2632		
ボランティア活動	件数	189	0.75	142		
メディアによる啓発	件数	218	0.75	164		
鑑定	件数	143	5.00	715		
保健医療従事者への教育	件数	235	0.75	176		
審査員、審判活動	回数	332	0.75	249		
同窓会活動	回数	104	0.40	42		
その他(記述)	件数	3152	0.12	378	7384.0	56.3
(国際交流)						
国際セミナー、シンポ	回数	119	9.00	1071		
大学/学術組織との交流等	回数	220	6.00	1320		
在外研究	回数	41	9.00	369		
姉妹校との交流	回数	91	6.20	564		
留学生/研究者の受け入れ(人/年)	件数	243	6.00	1458		
UN, JICA, NGO	件数	33	6.00	198		
技術指導	件数	71	9.00	639		
その他(記述)	件数	70	1.50	105	5724.2	43.7
					13108.2	100.0

4-運営

項目		総件数	素点	総件数×素点	項目別点数	% (項目別)
学部長		6	70	420		
附属施設長		25	35	875		
委員長-全学		33	20	660		
委員長-学部		146	15	2190		
委員-全学		598.5	8	4788		
委員-学部		1159	4	4636		
その他(記述)		145	3	435	14004.0	100.0

5-診療

項目	総件数	素点	総件数X素点	項目別点数	% (項目別)
1-一般診療					
診療時間 時間/年	192898	0.030	5786.94		
診療患者数 人/年	273334	0.010	2733.34		
特殊患者診療数	1466	0.040	58.64		
難治症例	1731	0.040	69.24		
紹介患者数	5109	0.030	153.27		
指導症例数	22501.5	0.010	225.02	9026.4	72.8
2-時間外診療					
当直日数 日数/年	4143	0.250	1035.75		
時間外診療 時間/年	37610	0.050	1880.50	2916.3	23.5
3-特殊検査					
特殊検査件数/年					
内視鏡	1161	0.030	34.83		
放射線	814	0.030	24.42		
その他	13704	0.015	205.56	264.8	2.1
4-講演会等					
臨床活動普及活動	211	0.065	13.72		
講演回数	221	0.200	44.20		
臨床成果学術活動	448	0.080	35.84	93.8	0.8
5-地域貢献活動等					
医事紛争対応	18	1.400	25.20		
地域病院への協力	3736	0.010	37.36		
第三者評価への協力 件数	76	0.550	41.80	104.4	0.8
				12405.6	100.0

II 自己評価報告書

(平成 16 年度 組織評価報告書)

組織（部局）名：

組織長（部局長）：

組織評価の責任者名：

提出日： 年 月 日

組織（部局）評価の対象者（合計 名）

教授 名；助教授 名；講師 名；助手 名；

その他（ ） 名

総合組織評価（自己評価）

評価分野	活動比率（%）	評点(A,B,C,D)	傾斜評点（比率×評点）
教育活動			
研究活動			
社会貢献活動			
学部等運営活動			
診療活動			
合計	100		(/ 400)

自己評価の評点（A=4, B=3, C=2, D=1）

（教員データ集計も基にした）組織全体としての活動比率（%）（Total 100%）

(1) 教育活動の組織評価

(1) – 1 教育目的

(理念等から具体的な教育目的を抽出し，箇条書きする。)

所属部局（学部，大学院）の教育目的

学部

1)

2)

3)

大学院

1)

2)

3)

(1) – 2 平成16年度の教育活動における4つのC (①Chance, ②Challenge, ③Change, ④Create)について (それぞれA4 1～2枚)

① Chance (改革目標)：教育活動

--

② Challenge（計画）：教育活動

--

③ Change（成果）：教育活動

--

④ Create（次年度の改善目標）：教育活動

--

(1)－ 3 上記「4つのC」に対する教育活動の達成度を A-D で評価し，1つを選択して○で囲む。

- A, 上回って実施している。
- B, 順調に実施している。
- C, 十分に実施できていない。
- D, 実施していない。

(1)－ 4 学長等への教育面における要望等 (A4 1枚程度)

資料 1 1

別添

部局等活動総括表

所属部局名	
部局長名	
総教員数 (提出者数)	名 (名)
教授	名 (名)
助教授	名 (名)
講師	名 (名)
助手	名 (名)
その他	名 (名)

総合自己評価			
活動分野	活動比率 (%)	評点 (A = 4, B = 3, C = 2, D = 1)	傾斜評点 (比率×評点)
教育活動 (入試を含む)			
研究活動			
社会貢献活動			
大学運営活動			
診療活動			
合計	100		/ 400

I 入試関連

自己評価

A, B, C, D

1 入試改革	
2 入試対策	
3 その他 (受験者対策等)	
4 受験者志願者総数	注: 評価本部記入 ()
5 受験者数	注: 評価本部記入 ()
6 倍率	注: 評価本部記入 ()

II 教育

自己評価

A, B, C, D

1 講義時間数	(時間 / 年)
共通教育	(時間 / 年)
学部, 大学院	(時間 / 年)
他学部, 他大学	(時間 / 年)
2 学位審査件数	修士課程 (主査 件: 副査, 件) 博士課程 (主査 件: 副査, 件)
3 学生指導 (卒論, 修論, 博論)	卒論 件; 修論 件; 博論 件
4 FD関連 (企画件数; 参加件数)	(企画: 件) (参加: 件)
5 就職相談	(件 / 年)
6 学生による授業評価普及率	(約 %)
7 教育改革・対策	① () ② () ③ ()

III 研究

自己評価

A, B, C, D

1 著書 (総数)	(編)
欧文	(編)
邦文	(編)
2 総説 (総数)	(編)
欧文	(編)
邦文	(編)
3 原著論文 (総数)	(編)
欧文	(編)
邦文	(編)
4 症例報告 (総数)	(編)
欧文	(編)
邦文	(編)
その他の論文 (査読なし)	(編)

5	Impact factor(Total)	()
6	Citation index (Total)	()
7	学会活動（発表，司会）	総回数（ 回）（司会 回） （国内 回）（司会 回） （国外 回）（司会 回）
8	受賞（名称，件数）	件数： 名称：
9	特許（作物の品種登録を含む）	出願（公開）（ 件） 取得（ 件）
10	研究セミナー等	全国（開催件数 件） 地方（開催件数 件）
11	その他	

IV－外部資金獲得等
（代表者のみ）

自己評価
A,B,C,D

	総 額	(万円／年)
1	科学研究費補助金	(万円)（採択件数 件／応募数 件）
2	共同研究	(万円)
3	受託研究，奨学寄附金	(万円)
4	学長，学部長裁量経費	(万円)
5	その他	(万円)

V－社会貢献

自己評価
A,B,C,D

1	学外における教育活動	(時間／年)
2	講演，研修	(件)
3	審議会活動	(回数)
4	産官学との連携	(件数)
5	ボランティア活動	(件数)
6	メディアによる啓発活動	(件数)
7	審査員，審判・鑑定活動	(回数)
8	その他	

VI－国際交流

自己評価
A,B,C,D

1	国際セミナー，シンポジウム	(回数)
2	大学（学部）／学術組織との交流等	(回数)
3	在外研究	(回数)
4	海外姉妹校との交流	(回数)
5	留学生，研究者の受入	(人／年)
6	UN, JICA, NGO	(件数)
7	その他	

VII－学部等運営

自己評価
A,B,C,D

1	附属施設長等	(件数)（施設等名：)
2	委員長（全学）	(件数)
3	委員長（学部等）	(件数)
4	委員（全学）	(件数)
5	委員（学部等）	(件数)
6	その他	

VIII－診療

自己評価
A,B,C,D

	1 診療への従事度（貢献度）		
1	診療日数	(日／週； 日／年間)	
2	診療患者数	(人／週； 人／年間)	
3	当直日数	(回数／月； 回数／年)	
4	時間外診療時間（緊急症例を含む）	(時間／週； 時間／年間)	
5	診療単価（外来）	()	

6	特殊検査	総件数（ 件）（内容； ）
2 診療内容		
1	過去1年間の患者数 （症例数）	（外来， 人／年；入院， 人／年）
2	過去1年間の指導料症 例数	（ ）
3	臨床成果の普及活動	有：無， 回（内容： ）
4	講演回数	（ 回数）
5	臨床成果に関する学術 活動	有：無， 回（内容： ）
6	紹介患者数	（ 件）
7	医事紛争対応	（ 件）
8	地域の病院に対する支 援	（ 件）
9	第3者評価への協力	（ 件； 日／年）
3 その他		

注：書式中，有無を記入する場合は，該当する事項の前に○印を記入願います。（有の場合の例：（○有，無））